

新収資料紹介

片岡京二作「喫煙の自画像」・後藤和信作「拓響」

柿崎博孝

2009年度も当館のコレクションおよび活動の充実をはかることを目的に、多くの方々から資料寄贈の申し出を受けました。ここでは寄贈を受けた資料のうち、美術分野における資料を2点紹介いたします。

「喫煙の自画像」は、昨年8月に画家・片岡京二氏(1899 - 1993)と生前に親交のあった児童文学者・まど・みちお氏から寄贈を受けたものです。片岡氏は広島県呉市に生まれ、1912(明治45)年から京都市立美術工芸学校で絵を学びました。1923(大正12)年に上京して活動をはじめ、個展・同人展の開催や帝展などに日本画を出品して活躍しました。しかし、束縛の多い画壇やそこに群がる人々との関係に嫌気がさし、画壇を離れていきました。以後、どこにも所属せず、絵本や児童書の挿絵を描きながら、制作活動を続けました。本学出版部の本にも挿絵を提供するなどした縁で、逝去後当館に関係者から作品や関係資料320点の寄贈を受けています。作品は、最初油彩画を描いていた京都時代のもので、片岡氏初期の作品として貴重な資料といえます。



「喫煙の自画像」 布に油彩、
83.0 × 53.0 cm、1916(大正5)年
まど・みちお氏寄贈資料

「拓響」(表紙参照)は、昨年11月に作者後藤和信氏(1930 - 2007)の御子息である後藤司右一氏(本学卒業)から寄贈を受けた資料です。作者後藤氏は静岡県に生まれ、1949(昭和24)年から井上恒也(川合玉堂門)に師事して花鳥画を学びました。1954(昭和29)年静岡県展で知事賞受賞後に上京して田中清坪に師事し、1957(昭和32)年日本美術院展に初入選しています。以後、日本美術院展を中心に活動し、海外ではブラジルの大統領府宮殿、アメリカのデンバー美術館、スペインのマドリッド公館などに作品が収蔵されています。寄贈を受けた作品は、1960年代の玉川学園近郊の風景を題材としたものです。重機によって削り取られていく開発の様子が巧みな色彩とダイナミックな構図で表現されています。

※2作とも本年4月から1ヶ月間特別展示いたします。

(かきざきひろたか/教育博物館准教授)